

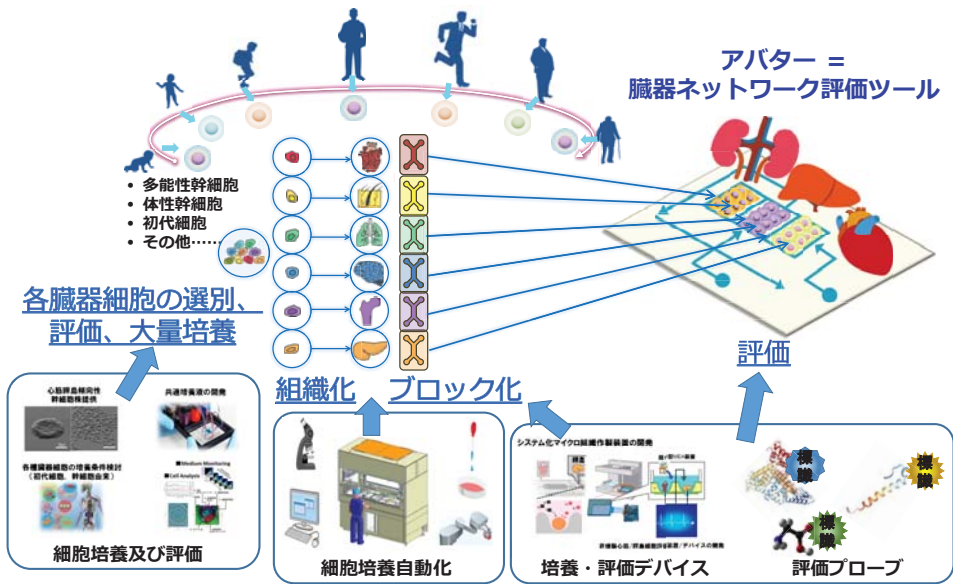
有用かつ安全なサプリメントの開発を手助け

サプリメントの摂取に不安を感じない社会を実現

開発の内容

商品・サービスの内容

- サプリメントの効果、複数飲み合わせ時の影響を精度高く予測できる臓器ネットワーク評価ツール
- 個人に合わせた適切なサプリメントの摂取アドバイス、安全・安心なサプリメントを提供(サプライメーカー)



ターゲットユーザー

検査会社、コンサルタント会社
個人顧客

ユーザーベネフィット

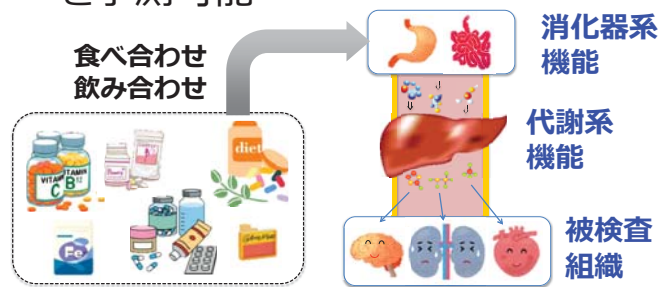
- サプリメント作用を生体外で正確に予測
- 有用なサプリメントを安心して摂取(消費者)
- 安全なサプリメントを開発(サプライメーカー)

成果

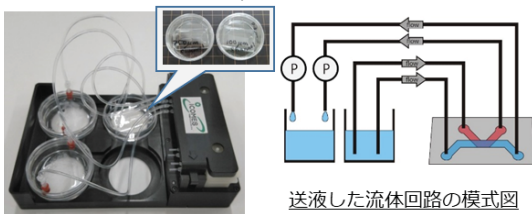
iPSを用いた臓器細胞を作成し、三次元臓器モデル用チップを用いた血管網と各種臓器オルガノイドの融合が可能になった。今後は、AMEDなどの他のファンドにて研究開発を行う。

差別化のポイント

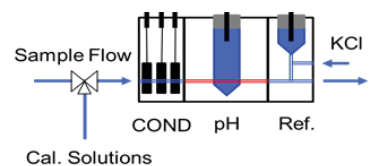
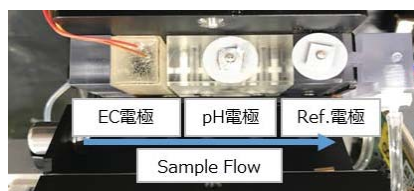
- 遺伝情報、代謝系を含めた効果・副作用を予測可能
- 複数の飲み合わせによる複合作用を予測可能



PDMS流路：2種類



送液した流体回路の模式図



マイクロポンプによる臓器モデル用チップの連結

細胞状態モニターデバイス

パナソニック(株)、(株)アイカムスラボ、アサヒクリティアントイノベーションズ(株)、東洋製罐ホールディングス(株)

テーマ担当：サントリーMONOZUKURII(株)、堀場外バンスドテカ、(株)堀場製作所、(株)ユークレナ
京都大学 工学研究科 横川 隆司准教授、iPS細胞研究所 齊藤 潤准教授 他